
魔法少女
ユメミ
「絶倫男に堕とされる
悪の女幹部編」
「この私を恐れなさい」
「人間ごときにこの私が堕ちるなんて
ありえないんだから…」
「んぇ…んぶ…オチ◎ポ。
しゅごいよぉ♡…」


「魔法少女ユメミ抹殺の為、遂に悪の女幹部が動き出す」
ま・・いいわ・・今からあんたは苦痛と絶望・・・そして私への恐怖を抱いて死んでいくの・・
私のために・・思う存分泣き喚きなさい人間
オオオオオオ・・・


「絶体絶命の危機かと思いきや、一人の男の出現によって事態は思わぬ方向へ・・・」
はっ
ん
ミキちゃんのマ〇コ・俺のチ〇ポずっぽり咥え込んでるよ・ほらっ
やぁ
今日はミキちゃんがセックス大好きになるまで俺のチ〇ポで突いてやっからよろしく♪
やっ・・は・・
んいい・・う


あっ…ん♥
も…無理…またイッちゃう…我慢出来ない…はあ♥
あ♥
分かり易いなー…イキたくてイキたくて必死に腰振り過ぎだろ…まじエロいわ
あ♥
は♥
は♥
イクッ♥


オチ○ポ・・はあ・・気持ちい・・い♥
悔しいのに・・ユージのオチ○ポ・・最高に・・はっ・・気持ちいいのっ♥
よーし・・ならご褒美に子宮に精子ぶっかけてやっから・・感謝しろっ
はあ・・ぁ
はっ♥
はっ♥
はっ♥
はっ♥
あっ♥
ビクッ
ビクッ
ビクッ


今日の朝メシは・・和食にすっかなぁ・・
あっ・・あっ・・奥きてる♥・・おほっ♥
はあっ♥
はっ♥
はっ♥
んほ♥
おっ♥


魔法少女
ユメミ
「絶倫男に堕とされる
悪の女幹部編」
「この私を恐れなさい」
「人間ごときにこの私が堕ちるなんて
ありえないんだから…」
「んぇ…んぶ…オチ◯ポ…
しゅごいよぉ♡…」

第一話「魔法少女ユメミと魔人トントーロ」

街を守るべく魔人トントーロと
相対した魔法少女ユメミだったが
トントーロの卑劣な罠に掛かり捕まってしまう・・


ブッ・ブヒッ・実に気持ちいい
ブヒッ・・・いくら射精(だ)しても
チ〇ポが治まらないブヒッ
はっ・・あぁ
ズズズ
んっ
ズチュッ
ズチュッ
ギッ
ビクッ
んっ
はぁっ
ビクッ
ブルッ
ズチュッ
ビクッ
ツンボ
ズポッ
ビュッ
はぁ♥
もっと・・もっとユメミの
マ〇コを堪能してやる
ブヒッ・ブヒヒッ
ギッ
んぎっ♥


これからは・ブヒッ・俺様の肉便器として毎日・ブヒッ・犯してやるブヒッ
はぁぁ
ズチュッ
ズボッ
ビクッ
はぁぁ
ズチュッ
はぁぁ・奥う♥あん・あっ・ぁ
ビクッ
ビクッ
ボボッ
ボボッ
ズボッ
いぎっ
ビクッ
ブヒヒッ・いいぞもっと鳴けブヒッ！
あっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ


ギッ
ビクッ
はっ
んっ
ズッ
あっ
ズブッ
あぁ
ズギッ
ズギッ
はあ♥
ブルッ
タパッ
ビクッ
ブボッ
ブボッ
ズッ
ブビッ
はあ
あっ・・はっ・・んぁ・・そんな・・突いたら・・あふれ・・ちゃ・・♥
ブヒッ・・またたっぷりと俺様の精子を注ぎ込んでやるブヒッ・・ブヒヒッ


ブヒヒヒッ
射精すぞっ・
俺様の精子を
子宮で味わえっ!!
はぁ
おっ
ぐっ
ビクッ
ビクッ
ビュルルッ
ビクッ
ブルッ
パパン
ビクッ
ビクッ
あぁ
ブヒッ・ブッ・
ブヒヒッ・ブヒッ
ビュー
ブボッ
ギ
あつ・い♥
んおヲ
ビュッ
ブビッ
おっ
ぐっ
ビュボッ
ビュッ


あ
ビュル
ブビッ
ビッ
ビッ


お・・んぁ・・あ
はっ・・ああ♥
ブヒッ・・しっかり搾り取って
俺様の子を孕めブヒッ・・
ブヒヒッ・・・ブヒヒィ・・・♥
やぁ・・はあ・・あ
裂けちゃ・・んいっ♥
あぁっ・・あう♥
はっ
ぐん♥
あ
ガクッ
ビクッ
ギッ
ブルッ
タプッ
ビクッ
ビクッ
ブビッ
ブルッ
ゴポッ
ブポッ
ビュッ

その後
使い魔アナルルの協力もありピンチを脱したユメミは
魔人トントーロと再戦、必殺技マナ☆フレイムにより勝利した。
「魔人トントーロ討伐」

第二話「魅鬼と幹部集会」

魔法少女ユメミの出現と度重なる魔人の敗北、更には幹部の一人であったエロブルー(前回登場)が倒されるという事態に、魔人を統括している悪の組織の長ギガイは幹部集会を開くことにしたのだった。


皆に集まって貰ったのは
他でもない魔法少女ユメミに
ついてだ・・クンニック博士・・
説明を頼む
クシシシ・・かしこまりました
ギガイ様・・僭越ながらこのクンニック
が魔法少女ユメミに関して分かった
ことを報告致しますすす・・クシシ


先の戦いで敗れた魔人たち・・そして今回敗れたトントーロ・・皆始めこそ優位な状態でしたが凌辱後に形勢を逆転されています。
ふむ・・どうでもいいことだが・・これは録画データか？
は？・・はい・・録画データですが・・
なるほど・・


・・それで分析してみて分かったことですが・・どうやらユメミは魔人に犯されることで相手の力を弱体化させ・・更には敵から得た精力を魔法力に換えているようなのですすす・・・
そしてその状態から放たれる必殺技はエロブルーの装甲を打ち破る程強力なのですすす
ズン
ガシャン


これに対抗するには・・・
複数の魔人によりユメミと戦うか・・魔人を強化するか・・いずれにしても今後何らかの対策が必要でしょう・・・クシシシ
はい・・何でしょうか・・ギガイ様
後でさっきのハメ撮りデータをコピーしてくれんか・・へへ
ふむ・・なるほど・・ところでクンニックよ
ギィ・・・
・・・はあ・・あの分かりました・・・


はあー・・
バッカじゃないの
えっ!?
バカって言ったのよ・・
こんなの犯す前にさっさと
殺してしまえばいい話じゃない
む・・いきなり何だ
ワン・・魅鬼(ミキ)
むう・・それは・・
ああ・ゴホン


魅鬼よ・・我ら魔人にとって性への渇望は何よりも・・
・・ワシの話し
しかし・・性は我らにとって最も優先されるべきものでござるぞ・・魅鬼殿
ぁ・・それワシのセリフ・・・
敵を前にして舌なめずり所か遊んでるから負け続けてるんじゃないの・・・
ビクン ビクン


だったらユメミと戦う前にオナニーでも何でもすればいいでしょ・・少しは学習しなさいよ
クゥ〜ン・・・
あの・・ごめん
ゾクゾクします・・・
はぁ はぁ
あわわわ・・・
てか・・・いきなり呼び出したかと思ったら・・こんなくだらない話しをダラダラと・・はあ・・まじムカツクんですけど・・・
ブン ブン


ま・・丁度退屈してたとこだし
・・いいわ・・私が行ってユメミを
血祭りにしてあげる
怒らせると怖いから
何も言わないでおこう
私にかかれば魔法少女なんて
ただの人間と変わりないし
・・・んふ・・あはははは
ギッ・・・

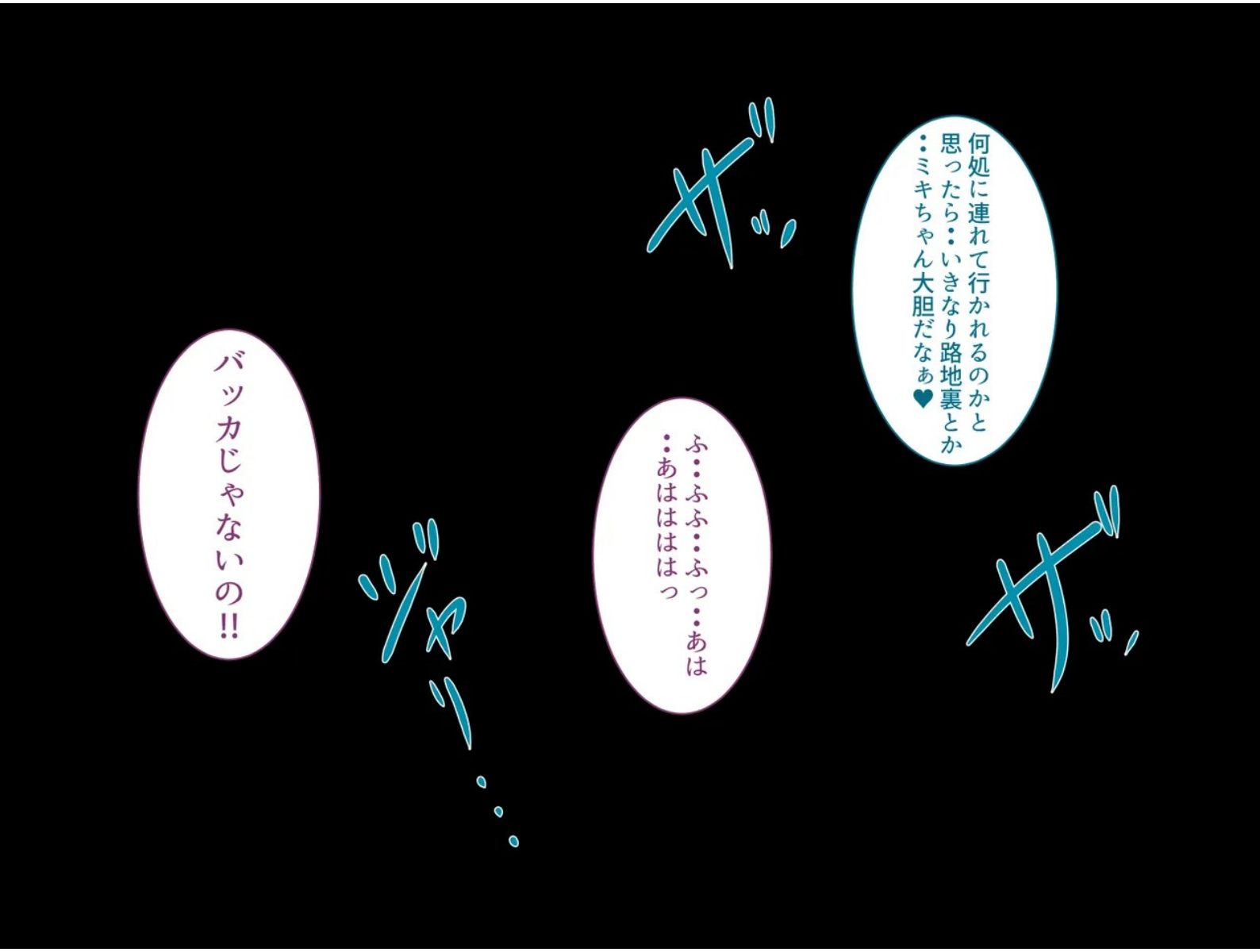
第三話「魅鬼と人間の男」


後日
人で賑わう街中に悪の
女幹部魅鬼の姿がそこ
にはあった。
さてと・・ここらで適当に人間を
殺して回ってれば勝手にユメミも
現われるでしょ・・・
ガヤ
ガヤ
ガヤッ
ポロ～ン


現われたら・・必殺技を使う前に終わらせてあげる・・
ヒューッ・・・
めっちゃ派手ってかエロい恰好してんじゃーん・・何々？・・それってコスプレ？
・・・は？
ガヤ
ガヤ
ズイッ


ガヤ
ガヤ
お・・すげー可愛いじゃん・・君めっちゃ俺のタイプだわ
是非二人きりで色々喋りたいなー・・もちメシは俺の奢りだし何でもするよ♥
・・・ふーん何でも・・何でも・・ね・・
下等な人間風情が・・・この私に・・・
ワキ
ワキ


そそ・・何でも・・ちょっとでいいから俺に時間ちょーだい
ガヤ
ガヤ
ふん・・いーわよ・・特別に相手してあげる
ポワーン
まじ!?・・俺めっちゃ感激・・俺ユージっての・・君は何て呼べばいいの？
バカそうな奴だけど・・なぶりがいありそうだし・・こいつで遊んでからユメミを殺そうっと♪
つキッ
・・・魅鬼(ミキ)よ


何処に連れて行かれるのかと思ったら・・いきなり路地裏とか・・ミキちゃん大胆だなぁ♥
ザッ
ふ・・ふふ・・ふっ・・あは・・あはははははっ
ザッ
ジャリ・・・
バッカじゃないの!!


今からあんたは・・・
私に殺されるのよ！
え？・・まじ？
それって・・性的にって
こと？ｗ
はあ？・・ふん・・
とんだ勘違い野郎ね

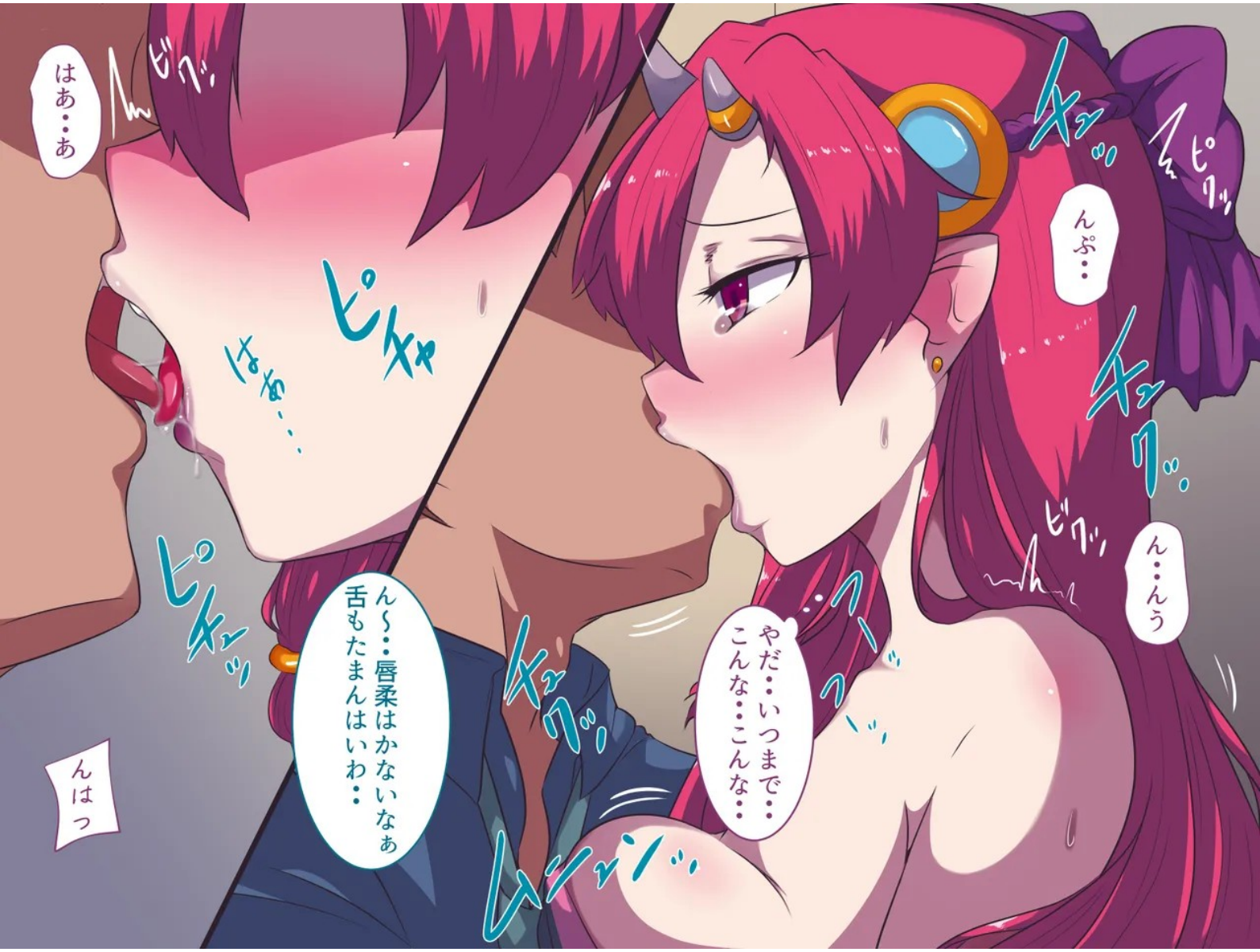

ま・・いいわ・・今からあんたは
苦痛と絶望・・・そして私への
恐怖を抱いて死んでいくの・・
私のために・・思う存分
泣き喚きなさい人間
オオオオオオ・・・


まずは・・そうね
逃げられないように足に
穴を開けて・・・
・・ミキちゃんみたいな
可愛い子に殺されるなら
本望だけど・・でも殺され
る前に・・・

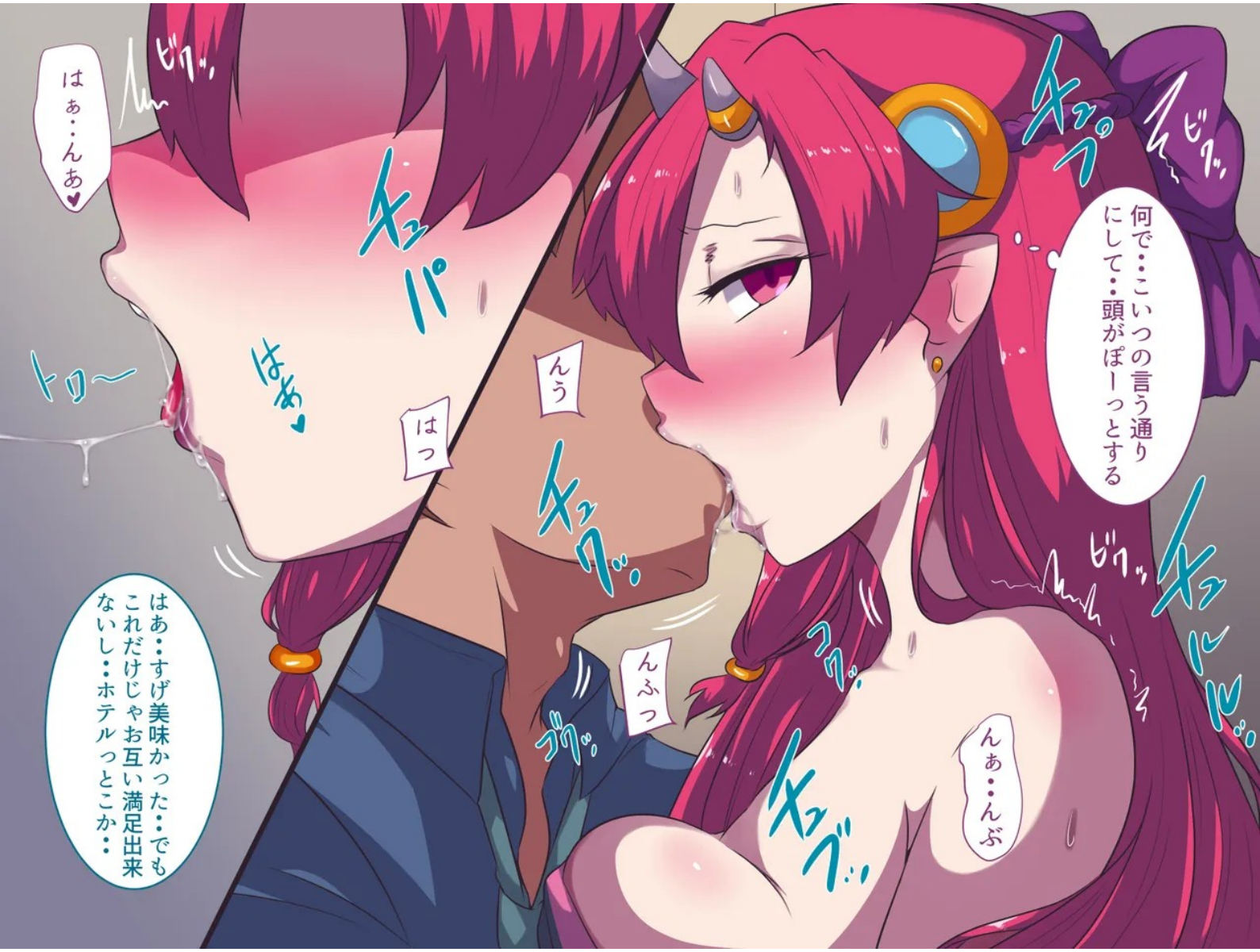

ミキちゃんとエロいことしてからでお願いしまーすっ・・・
んんっ!?
!?
んっ!?


んん・・んっ・・
こいつ・・嘘・・嘘・・うそ・・これ・・キスして・・私のファースト・・キス・・
ビクッ
んっ
んう


んっ
んうっ・・んんっ・・んっ
こいつ・・今すぐ殺して・・でも・・力が・・なんでぇ
んふ
んぷ


はあ・・あ
んぷ・・
ん・・んう
やだ・・いつまで・・こんな・・こんな・・
ん～・・唇柔はかないなぁ舌もたまんはいわ・・
んはっ


はぁっ
ピチャッ
はっ
はっ
ピチャッ
はん…
めっちゃ美味い
はぷっ
チュル
ゴクッ
舌…凄い…それに
私の唾液を吸われて…
んぷ
チュプ
ピチャッ
ワチャッ
ビクッ
もっほ舌絡めへ…
ん〜…んん…んふ
んや…んっ
ビクッ


何で・・こいつの言う通りにして・・頭がぽーっとする
チュプ
ビクッ
チュル
チュグ
チュパ
はぁ・・んあ♥
トロ〜
はぁ♥
はっ
んう
チュグ
んふっ
ゴクッ
んぁ・・んぶ
はあ・・すげ美味かった・・でもこれだけじゃお互い満足出来ないし・・ホテルっとこか・・

第四話「魅鬼と初体験」


お・・ミキちゃんのマ〇コキレーだね・・処女かぁ・・俺ラッキー♪
バッ・・バカぁ・・見るなぁ・・あう・・鼻息が・・やあ
ぐぐっ・・こんな・・魔人である私に・・こんなことして・・あっ・・こらぁ
はっ はっ
ビクッ
ビクッ
グッ
プルン
グッ
カパッ・・
グッ
キツ


んぶっ・・ミキちゃんエロいなぁ・・もうビショビショじゃん・・んぶぶっ
やっ・・ぁ・・こら・・舐める・・なっ・・ぁ・・はあっ・・んう・・ふっ
私のアソコ舐められてる・・恥ずかしい・・でも力が入らなくて抵抗がぁ・・
ピチャ
プルン
ビクッ
ふう


ピチャ
はっ
ピチャ
ビクッ
言う・・なぁ・・はあ・・あ・・もう・・やめ・・んあっ・・あう♥
ピチャ
はっ
はっ
イク
あっ
はあ・・これ・・自分でするより気持ちいいかも・・はあ・・
ビクッ
んぐ・・蜜がどんどん溢れてきて・・うめぇんぐ・・んぶっ
はあ
ピチャ
ピチャ
はっ・・ぁ
んぶぶっ・・ん〜


あ～～ぐ～～
はあ
んぶ・イッたイッたイキ顔そそるなー・・
てか俺もう我慢の限界だし・・本番いっちゃおっか・・ミキちゃん♪
・・・ふえ？
プル
ビクッ
あっ
プル
ピチャッ
はっ
んは
チュパッ
チュプッ


あ～・・ひぁ
いぎっ・・あ・ああ
動いちゃ・・ダメェッ
ミキちゃんの処女マ〇コ
キツキツでヤバイわー！・
あ～腰止まんねえ・
あぐっ・・ああ
はっ
あっ
ぎっ


今日はミキちゃんがセックス大好きになるまで俺のチ〇ポで突いてやっからよろしく♪
やっ・・は・・
はっ
んっ♥
んう
んいい・・う♥
ミキちゃんのマ〇コ・俺のチ〇ポずっぽり咥え込んでるよ・・ほらっ
やぁ
ギッ
ズチュッ
ズンッ
ビクッ
プル
ズッ
プルン
ビベッ
ジンジン
ブボッ


いいよいいよ・その調子でマ〇コに集中して・そらっ・そらっ・どうだぁっ
んぎっ・はっ・あっ・んはっ♥
突いちゃ・らめ・ああ・はあっ
んあ
はっ♥
あっ
ぎっ


あ～きたきたミキちゃんの膣(なか)に射精っと
なか・・だめ
あ～～～～
あ
お～・・すっげ射精(で)る・・たまんないわ・・
はっ♥
あはっ


ビュル
はっ
ビュ
へぁ
ビュ
ミキちゃん初めてなのにイクとかまじスケベだなwてか俺との相性が・・はあ抜群なのかな・・はははは
ガクッ
あう・・あつ・・んい・・・はあ
プルン
は～
は～
あっ
ガクッ
プルン
ビュー
ビュー
ブビッ
ブボッ
ブプッ
んは・・あ・・あ
射精(だ)しきったら2回戦ね・・今日はヤリまくろうぜー・・・


数時間後
ふい～・・射精した
射精した・・流石にもう
出ねーわw
んえっ
は♥
んぁ♥
ビクッ
ビュ
ビクッ
ミキちゃん膣も外も
精液まみれじゃん・・
エロいなーw
あ～・・う♥
ビクッ
ニチャ・・・
は～♥
は～♥
んぷ・・ぷぁ・・あ
へう・・あっ♥


んぶ・・ん♥
これからちょくちょく
ご奉仕して貰うから・・・
よろしくなーミキちゃん♥
ほら・・しっかり
ご褒美精子飲んで・・
んく・・・♥
んん・・んぐっ♥

第五話「魅鬼と呼び出し①」

魔人組織の女幹部「魅鬼」が人間の男ユージに犯されてから二週間が経っていた。
その間も2日に一度はユージに呼び出され体の関係を重ねていた。
そして今日もユージに呼び出され、ホテルへと連れていかれたのであった。


今日もしっかりスケベマ〇コで俺を喜ばせろよ
あ♥
はっ♥
はぁ
挿入れる前からマ〇コグショグショにしてたじゃん・俺のチ〇ポ楽しみにし過ぎだろw
あっ・・あぐっ・・なんで私が・・あっ
んはっ
やっ・・ぁ・・ちが・・これはぁ・・あ♥


あ～・・すっげ絡みついてくるわ・・いいぞもっと締めろ・・オラッ・・オラッ
たかが人間に・・私が・・こんな・・でも・・でも気持ちいい・・よぉ・・
ん
ビクッ
あ
ズッ
ズチュッ
はぁ♥
はぁ♥
プルン
ズッ
ズチュッ
ギッ
はあ
おっ♥
ズボッ
ジュボッ
おほ♥
ブブッ
ギッ

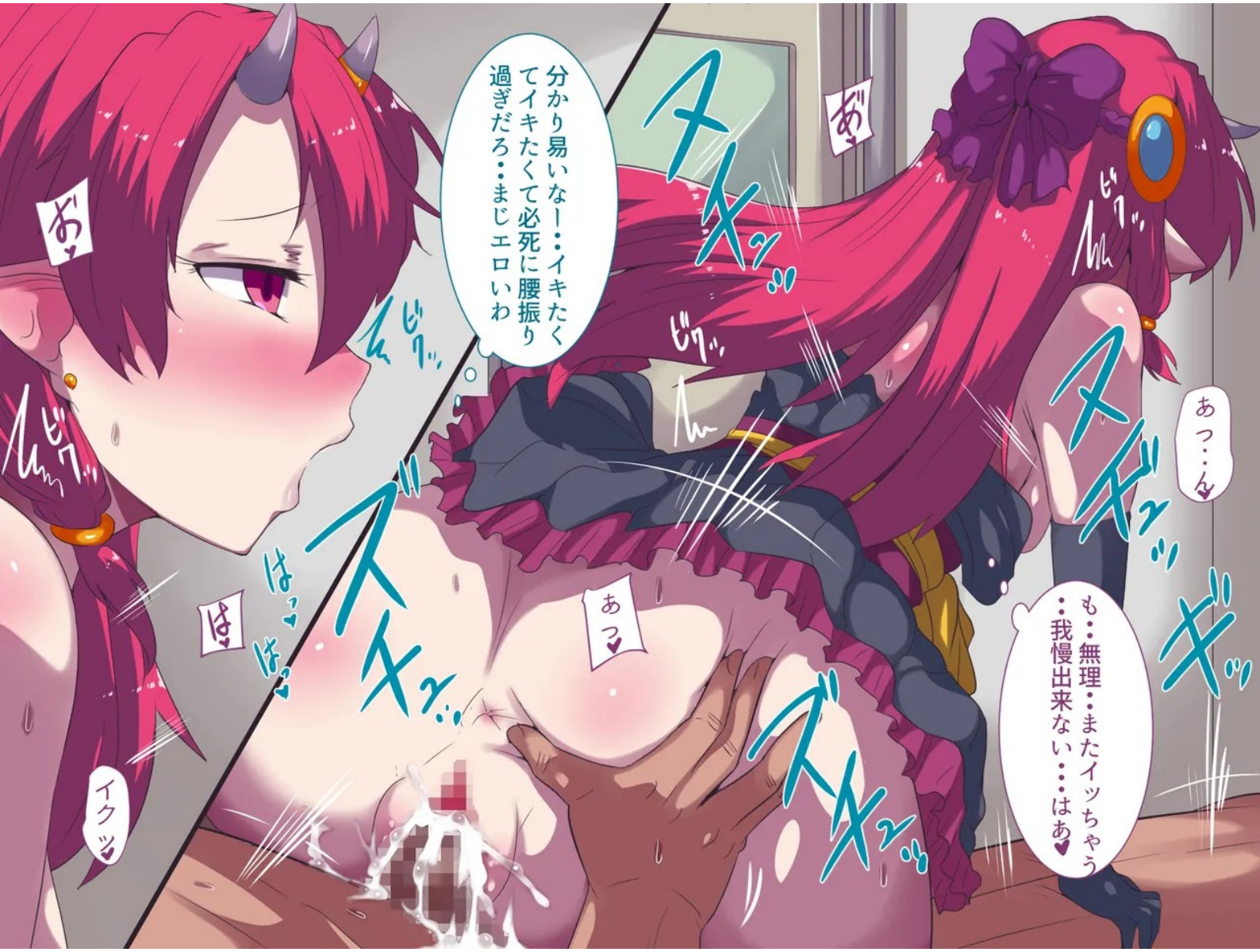

ズチュッ
ズチュッ
ズチュッ
ギッ
ギッ
はぁ♥
ぐ♥
おーし・・そろそろ・・
一発目射精(だ)すから子宮
開けとけよっ・・・オラッ
・・ふ
はっ・・はぁ♥
ブビッ
・・んいっ♥
ブプッ
ブポッ
ブポッ
は♥
んぎっ・・やっ・・あ
なか・・はぁ・・ダメ


あ～～・・イクイクッ射精すぞっ！
ビュル
ビュル
ビュル


あっ…んあ…はっ…
まだ射精(で)…る…はあ…ん…んうっ♥
おいおいまだ一発目だぞ
今度はお前がケツ振って
奉仕しろよ…
あ…ぁ♥
はっ…そんな
恥ずか…こと♥
んは
あ♥
あ♥
は♥
ビクッ
ビュル
ビュッ
ビクビク
プル
ビクビク
ビュビュル
ビュビュ
ボポ
ギッ


いーよいーよ・その調子でしっかり俺のチ〇ポ喜ばせろよ
悔しい・でも腰が勝手に・動いちゃう・はあ・気持ちいいよぉ♥
ギッ
ギッ
ズチュッ
ズチュッ
あ♥
はあ♥
んうっ♥
あ♥
おっ
キュッ♥
ブボッ
ジュボッ
グッ
グボッ
ビクッ


ケツ穴引く付かせて・・
精子まで噴き出しやがって
・・とんだビッチだなw
やっ・・は♥
んっ♥
はぁ
あっ・・はあっ・・開いちゃ
ダメッ・・あっ・・んうっ♥
はっ♥
はっ♥
はっ♥
あ
おっ♥


あっ…ん
も…無理…またイッちゃう…我慢出来ない…はあ♥
あ♥
分かり易いなー…イキたくてイキたくて必死に腰振り過ぎだろ…まじエロいわ
あ♥
は♥
は♥
あっ♥
イクッ♥


はあ・・あっ
おぉ～～～～
ズ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビュルル
ビクッ
ビクッ
ギ
ビクッ
ビクッ
ビクッ


ふいー・・ちょい休憩してから
今日も朝までヤリまくっから
・・よろしくな・・ミキちゃん♥
射精(だ)されて・・
はっ・・はぁ♥
無理い・・はあ・・
壊れ・・ちゃ・・う♥
お♥
お♥
は♥
は～♥
は～♥
は♥
ビュー
ビュー
ビュー

第六話「魅鬼とオナニー」


あいつ・ユージからの呼び出しが来なくなってもう一週間・・・って別にどうでもいいし・・・
別に・・私・・欲求不満じゃ・・はあ・・ないし・・
ん
ビ
ビクッ
あ・・ぁ
ヴヴヴ
ヴヴ
んっ・・う
はあ
ウィーン
ウィーン
ウィーン
ギ
ギ
んっ


あんな奴いなくたって・・
一人でも・・何とか・・
あっ・・もっと奥・・
んっ・・んう・・はあ
ギッ
ビクッ
ビクッ
ヴーッ
ヴヴヴヴーッ
ウィーン
ウィーン
ウィーン
ビクッ
ふっ
はっ
はあ・・
プルン
プル
ぐんっ
ぐ


あつ・・はっ・・いい・・膣(なか)で・・暴れて・・はぁ・・あぁ・・あんっ♥
イキそ・・
あ♥
はっ♥
あつ♥
はぁ♥
はっ♥
はっ♥
はっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
キン
ヴヴヴヴッ
ヴーッ
ヴーッ
ウィーン
ウィーン
プル


ギッ
ビクッ
ぐっ
ビクッ
ん♥
はっ
あ♥
ヴー
ヴヴヴー
ビクッ
ウィン
ウィン
んんっ♥
気持ち♥
ビクッ
は♥
はっ
はあ♥
プルン
きた♥


気持ちいい・・のに・・なのになんで・・なんで満足出来ないの・・はあ
もう・・・バカぁ・・
はあ・・・
んく・・
はあ♥
あっ♥
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ヴーン
ヴーン
ウィーン
ウィーン
ズン
はあ♥
プル

第七話「魅鬼と呼び出し②」

いきなり呼び出した上に・・
こんな服着ろって・・なんで
私が・・

いいから着ろって・・今日は
制服コスの気分なんだよ・・
一週間振りのチ〇ポ欲しく
ねーの？



う・・んう・・分かったわよ
着れば・・いいんでしょ・・
着るから・・絶対挿入れ・・
てよね・・




おいおいどんだけ溜まってんだよw・そんなに俺のチマ○ポが欲しかったのか？
あんたのせい・・でしょお・・あんたが・・犯りまくるからぁ・・こんな体に・・あっ・・あぐっ♥
はあ・・ぁ♥


はは・・もうすっかりドスケベ魔人だな・・オラッ・・どうだチ〇ポは・・感想言ってみろよ
やっ・・はぁ・・ああっいい・・よぉ・オチ〇ポ・・はっ・・はあっ・・♥
気持ちいいよぉ♥
あ♥
ぱっ♥
はっ♥
あぁ♥
プル…
ビクッ
ビクン
ヌチャッ
ギッ


オチ〇ポ・・はあ・・気持ちい・・い♥
悔しいのに・・ユージのオチ〇ポ・・最高に・・はっ・・気持ちいいのっ♥
よーし・・ならご褒美に子宮に精子ぶっかけてやっから・・感謝しろっ
はあ・・ぁ♥
はっ♥
はっ♥
はっ♥
あっ♥
ビクッ
ビクッ
ビクッ


ビッビッビッ
んぐぅぅぅぅおぉ♥
ビッ
はっ♥
ビクビク
ギッ
んいいっ・精子きたぁ♥
・・・んう・・はっ・・ああ♥
ズキッ
んっ♥
ビクビク
プルン
ビッ
ビクビク
射精すぞミキツ
全部搾り取れよ
オオオォッ!!
ギッ
ビクビク
あっ♥
ブビッ
ブビッ
はっ♥
ブボッ
はぁ♥
ギッ
ああ・・♥


これからもスケベマ○コ使って欲しかったら・俺の言うこと何でも聞けよ・ミキ
セーシ・いっぱい・んあぁ・
おっ
ビュッ
ビクッ
ビクッ
ビク

第八話「魅鬼と乱れた性活」

その後
魅鬼の住まう館に一人の人間が住み着いた。
魔人たちの間でも噂となっていたが、幹部である魅鬼の根城であったため、どうすることも出来ず黙認されていた。


あ～・・やっぱ朝はフェラで起きるのが一番目覚めいいわ・・なあミキ
んうっ・・ん♥
んっ♥
んぶっ・・んく・・んっ・・んう♥
ん♥
ビクッ
ビクッ
ウィン
ウィン
ムニッ
ヤワ♥


お前も随分上手くなったな
・・ま・・・そりゃ毎日舐めてたら当然かw
んっ・・うむ・・んぐっ・・ぶっ♥
んっ・・♥
んぷっ♥
んん♥
ん♥


もっと音出せ音・そろそろイクぞ
んぶっ・んぐ・んんぶっ・んう♥
んふっ♥
あ〜それそれ・・いいわ・・まじ気持ちいい
ん♥
んっ♥


おおっ・イクッ
射精すぞミキッ
口マ〇コでしっかり
受け止めろよっ！
んんーーーーっ♥
んぐっ♥
ビュッ
ビュッ
ビュッ


ふう・・ちゃんと綺麗にしろよ・・
それ終わったらスケベマ〇コ使ってやっから子宮準備しとけ・・
んっ♥・・んぶんぐっ・・ん♥
ん♥
えう♥
ん♥
ん♥
ビクッ
ビクン
ビクン
ビクン


はは・・朝からすっかり出来上がってんな・・このスケベ魔人がよっ
あっ・・あ
あん♥
はあ♥
はあ・・ユージの・・オチ〇ポ・・あっ・・気持ちいいっ・・よぉ♥


今日の朝メシは・・
和食にすっかなぁ・・
あっ・あっ・奥
きてる♥・おほっ♥
はあっ♥
んほ♥
おっ♥

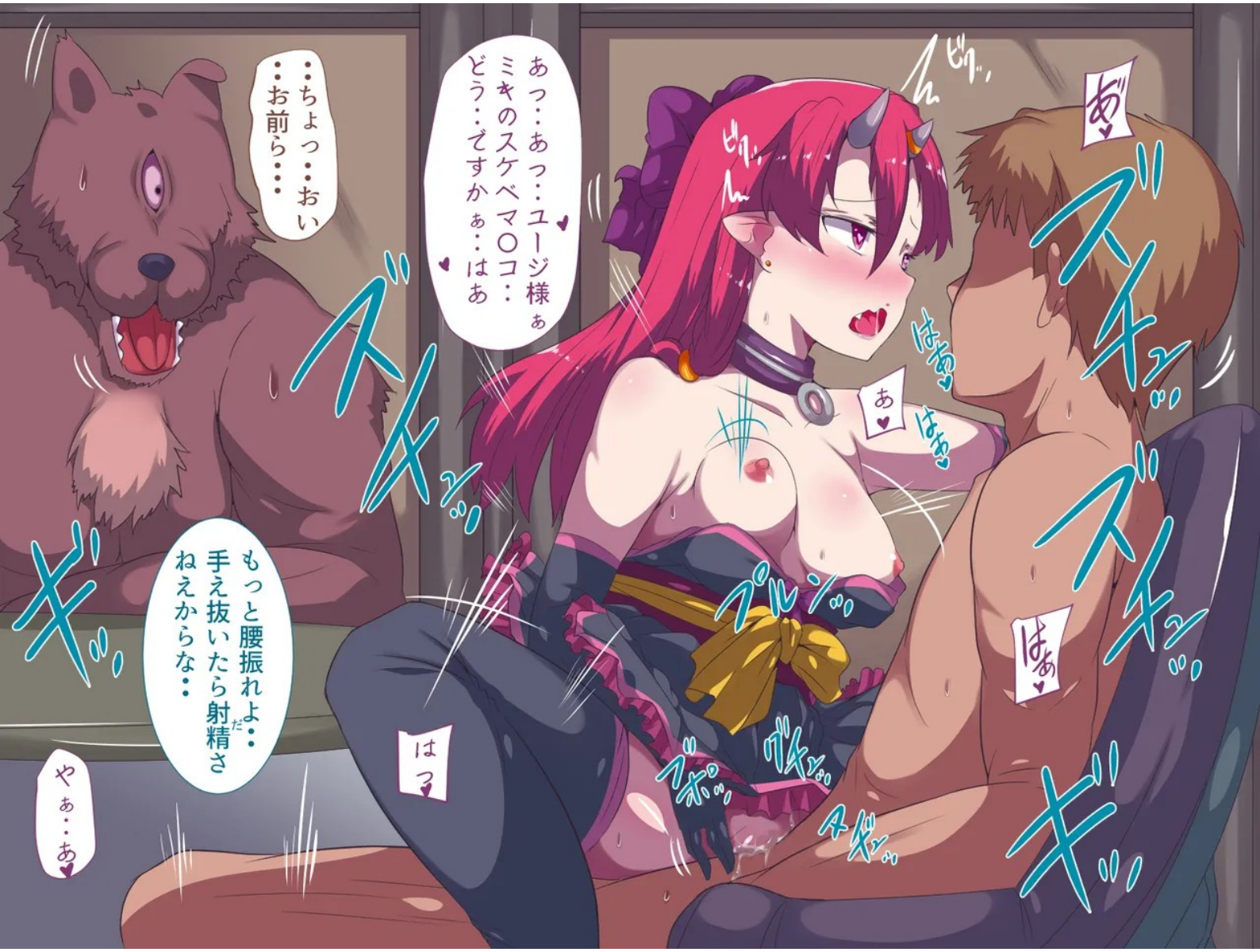

まあ・・まずは・・スケベ魔人の子宮にたっぷり精子注いでから・・朝メシだなっ
んや・・はっ♥
はあ・そこそこっ・・しゅごいよお♥
うい♥
あ♥
はっ♥
はっ♥
はっ♥
はあん♥
パチッ
パチッ
パチッ
パン
パン
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビュッ
ビュッ
ボタッ


あああぁっ
イクイクッ！
スケベマ〇コ
に膣射精しっ！
きたぁ♥
ユージの精子い♥
ひう♥
んっ♥


ビュ、ビュルル、
ふー・スッキリ・
ズッ♥
あ〜・♥
ビクッ、
ビクビクッ、
ビクッ、
ビクッ、
ゴポ、
ビクビクッ、
ビクッ、
ギッ、
ギッ、
ギッ、
ギッ、
ギッ、
ビクッ、
ビクッ、
ビク

最終話「魅鬼とユージの幹部集会」

その後
魔人幹部の空席だった場所に、一人の人間の男が着くことになった。
その名もユージ、勿論推薦者は女幹部の魅鬼である。
人間を幹部にするという強行に、不満を抱く者も多くいた。
しかし、幹部の魅鬼に対して大っぴらに反対出来るものもおらず
ユージの存在は幹部たちの間でも、黙認されることとなった。


あっ・あっ・ユージ様ぁ♥
ミキのスケベマ〇コ・
どう・ですかぁ・はあ♥
・・ちょっ・・おい
・・お前ら・・・
もっと腰振れよ・・
手え抜いたら射精さねえからな・・
やぁ・あ♥
あ♥
はぁ♥
はっ♥
ズチュッ
ズチュッ
ズチュッ
ギッ
ギッ
プルンッ
ビクッ
ビクッ
ズボッ
グチュッ
メギュッ


んん・・ん♥
ピチャ・・・
今日も・・ミキの膣(なか)に・・沢山注いで・・んっ・・う・・欲し・・です・・あっ♥
今・・幹部集会・・中・・ですけど・・
ユージ様の・・精子い・・はっ♥
ん♥
あん♥
はあ♥


んあっ・・はあっ・・ぁ・・
あっ・・オチ〇ポ・・奥に
当たって・・んひっ♥
あっ・・ああっ・・
イッちゃう♥
人前でイクとかとんだ
スケベ幹部だなw
ん・・う♥
はぁ
ぁ
ぱぁ
ん


あふ♥
んぐ
ズチュ
ビクッ
ビュル
ビュー
ビュー
ビュル
ギッ
はっ♥
あ〜〜〜


はぁ♥
ビッ
あはぁ♥
ユージしゃまの
・・セーシいっぱ♥
はっ
ビッ
は～♥
は～♥
プルン
はひ・・ぁ♥
あー・・まあ取り敢えず
これから俺も幹部ってことで
皆さんよろしくどうぞ
えっ!?・・あ・・の
・・はいっ・・ども
ギッ
はぁい♥
よろひく・・お願い
・・はっ・・しまぁす♥
END



